

活力導入 市内で民間動く

来月から要介護認定の申請受け付けが始まるなど、来春スタートに向けた動きが本格化している介護保険制度。民間活力の導入が制度成功のカギといわれているが、川崎市内でも福祉ボランティアがこれまでの活動で得たノウハウを駆使し、地域の施設情報を紹介するガイドブックを発行したり、県内で唯一、移送サービスでNPO(特定非営利活動法人)を取得するグループが現れるなど、独自の動きが出始めている。

介護サービス情報網羅 ガイドブックを発行

宮前区の在宅ボランティア

介護保険制度スタート時ほどまとめた「タッチ」に不可欠となる介護サービス情報は網羅したガイドブックが発行された。川崎市宮前区で活動している在宅介護ボランティアらがこの



介護のプロらに「タッチ」のガイドブック「タッチ」

一部千円だが、今月初旬の発行から半月で千五百部がほぼ完売という人気で、近く増刷する予定。高齢者らサービスの受け手に利用してもらおうというのが当初の意図だったが、実際に買った人の半数はケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパーら介護のプロたち。

編集責任者の「すずの会」(同区野川)代表の鈴木恵子さんは「地域で仕事をするための情報源にしたいようです」と話している。

「タッチ」は、人と人と

の触れ合いを大切にしようといわれたタイトル。テレビで本が紹介されてから、千葉や栃木など他県のグループからも問い合わせが相次いでおり、介護保険を通じた草の根ネットワークの輪が着実に広がっている。問い合わせは、鈴木さん

TEL 044-77557367へ。